

006 うさお

うさおの部署が4月に二部合体して、大所帯になった。で、てんやわんやしているうちに、うさおは定年になった。とりあえず一年毎の契約更新になるようだが、年金支給になるまで社員の身分で働けるらしい。

定年延長ってやつですね。完全に自由人になる積りもあったのだが、矢澤さんの年金貯蓄理論を読んだ後では、急に不安になってきたので少しほっとするなあ。出来れば管理職の枠を外してもらいたいなあ。

本はそんなこんなで、図書館でも借りずにいたので読んでいませんでした。ひたひたと後ろから健ちゃんの足音が聞こえてくるようで怖いぞ。

気持ちの余裕が出来たのか、濫読のうさおは漸く復帰したよ。



著書名	作者	概要	☆幾つ？
棄景 origin	丸田祥三	読書を再開するに当たって、まずは視覚的なものから目を慣れさせようと写真集から開始した。棄景の総集編のような作品群です。ここに今回のトマソン隊の種も入っていました。取材前に気がついていればなあ。	☆☆☆ 昔は吃驚したけれど、今はトマソン隊のほうがいいかな。へへへっ
墟	PRIDE	真夏の列島縦断97ヶ所のプラント跡などの写真集。丸田祥三の作品の後では、二番煎じの感は免れないね。でも好きだから出しましたって感じ。	☆☆ とりあえずさらっと見てみました。うさおもこんなもんかな。
棄景 5	丸田祥三	最新の作品集。眼を射抜く色ガラスの如き光に満ちた、幽寂にして炯々たる心象風景の去来が未だ嘗て誰も見た事の無い、永遠の過去へと続く幻想旅行の車窓を創造する。	☆☆☆ 惹句がすごい。これに釣られる。新しい着眼点を見せてくれないかと期待したが、今までの路線のものだった。
帝国の城塞	東山幸弘	東京湾・下関・舞鶴…明治から昭和期までに本土防衛のため全国に建設された要塞。断片的形象に秘められたかつての「大日本帝国」。観る者を深い観想へと導く、異色の写真集。	☆☆☆☆ 戦争遺跡を結構アカデミックに考察して写真集にしている。好感度高し。
玄鳥	藤沢周平	無外流の剣士として高名だった亡父から秘伝を受けついで路は、上意討ちに失敗して周囲から「役立たず」と嘲笑され、左遷された曾根兵六にその秘伝を教えようとする。武家の娘の淡い恋心をかえらぬ燕に託して描いた表題作をはじめ、身の不運をかこつ下級武士の心を見事にとらえた「浦島」など珠玉の五篇	☆☆☆☆ 鶴岡の城下町を舞台に独自の歴史観で、綴った武士道譚。この中に「武士の一分」もあるのかと読みふけたよ。
揚羽の蝶 半次捕物控	佐藤雅美	“いが茄子男”を探して江戸から岡山に旅した。岡山藩のお家騒動に利用されていた岡っ引半次。岡山藩に捕縛されたが間一髪で脱出し、江戸へ戻った半次は真相究明に執念を燃やす。	☆☆ 全2巻の長編だがとりあえず読んだ。こんなもの？
十手小町事件帳	六道慧	良縁を取り持つ“寿屋”。その“仲人かか”は美貌の二十歳、加納蒼生。秘密の裏稼業は、探し出せないものはない“妖堂”の、人呼んで“十手小町”！実の父は時の將軍吉宗公との噂もあり、更に秘密が！	☆☆ そんなこたあ無いだろう！ってタモリになっちゃうよ。
仮面のマドンナ	小池真理子	市原寿々子は27歳、OL。東京で独り暮らしを始めてもう9年になる。仙台の両親から8度目の見合い話が舞いこんだ。寿々子は恋人である五郎にこの話を相談し、興信所に自らの素行調査を依頼し、五郎と共にあえて品行劣悪な行動をとり、破談させようとした。	☆☆☆ アルレーを髣髴させる偽シンデレラ物語。

うしろ姿	志水辰夫	人生の終着が見えてきたとき、人は何を思うのか…。あるいは望まない道に引き込まれ、あるいはすすんで荒波の中へ、片隅で生きてきた人間の哀しさ、たくましさを、独特の筆致で描き切る。	☆☆☆☆☆ この作品はこの人の中では、そんなに評価が対処には無いが面白いよ。
夏日	鳴海章	自分が何者で、どこから来て、どこへ行こうとしているのか。築五十年の安下宿、雀荘「天和」、バイト、銭湯。八〇年代を目前に控えた東京の夏。ラジオの小さなスピーカーから吉田拓郎の歌が流れていた。怠惰な学生生活を送る野月篤朗の前に現れた及川紀子。	☆☆ この人はやはり航空機ものが出色でそれ以外のものはあんまり頂けない。でも期待して借りちゃうんだなあ。
はやぶさ新八御用帳 4 鬼勘の娘	平岩弓枝	箱根七湯; 白い殺人鬼; 御老女様の恋文; 鬼勘の娘; お化け女郎; 金唐革の財布; 新堀川慕情; さいかち坂上の恋人	☆☆☆☆☆ 危なげなく面白い。金唐皮、金唐紙は平賀源内が普及させた。そんな故事を思いながら読むとひとしお。
真相	横山秀夫	「真相」: 自慢の息子を殺されて 10 年、ようやく犯人が捕まった。未だ現実として受け入れることが出来ない。そんな中、犯人の口から殺人事件の「真相」が語られる。「18 番ホール」、「不眠」、「花輪の海」、「他人の家」	☆☆☆☆ 5 編の短編集、鳴海章と語り口は似ているが筆力はこの人が数段上。
第三の時効	横山秀夫	犯人か。刑事か。追われているのはどっちだ。男たちの矜りがぶつかりあう。	☆☆☆☆ 面白いんじゃない。
クライマーズ・ハイ	横山秀夫	北関東新聞の古参記者、悠木和雅は、同僚の元クライマー、安西に誘われ、谷川岳に屹立する衝立岩に挑む予定だったが、出発日の夜、御巢鷹山で墜落事故が発生し、約束を果たせなくなる。一人で出発したはずの安西もまた、山とは無関係の歓楽街で倒れ、意識が戻らない。「下りるために登るんさ」という謎の言葉を残したまま。未曾有の巨事故。社内の確執。親子関係の苦悩…。事故の全権デスクを命じられた悠木は、二つの「魔の山」の狭間でじりじりと追い詰められていく。	☆☆☆☆ 今度は地方の新聞記者が主人公で警察ものと比べると物足りない。
影踏み	横山秀夫	「ノビ師」真壁修一を主人公とした連作短編集。「ノビ師」とは、深夜家人が寝静まった住宅に盗みに入る泥棒のこと。かつて法曹界を目指していた秀才でもあるこのノビ師が探偵役となり、毎回謎解きをする。	☆☆☆☆ これが一番面白かったが、前にも借りているよ。
嗤う闇	乃南アサ	このほど晴れて巡査部長に昇進、それに伴って警視庁第三機動捜査隊から隅田川東署に異動した、ご存知・女刑事・音道貴子。バツイチ、34歳、ステディあり。新天地の下町で、個性派の同僚たちに揉まれながら四つの奇妙な事件が発生する。	☆☆☆☆ 音道貴子シリーズで結構面白く読めた。もっと強いキャラでもいいのにね。
棟居刑事の凶存凶栄	森村誠一	エリート官僚の歪んだ悦楽が殺意を招く!? 警視庁刑事・棟居が、現代社会の七つの膿みを鋭く抉る。	☆☆☆ 期待しなかったが結構広いものかも。
知られざる軍都東京	羊泉社	東京湾に浮かぶ廃墟と化した要塞島、首都防衛のための砲台要塞、海岸線に今も佇むトーチカ、ベッドタウンに残る秘密兵器の特殊地下施設…。23区内、東京湾岸に残る30の戦争遺跡を完全紹介する。	☆☆☆☆☆ 廃墟写真集なので興味深くよめた。今では入れないところがあり、リタイヤしたらこの趣味だな。
フェイク	楡周平	最後に笑うのは誰だ!? 虚飾の街・銀座のクラブで、さえないボーイの僕が巻き込まれた、コンゲーム。詐欺か、犯罪か、それとも銀座の一流の駆け引きなのか。	☆☆☆☆☆ 水商売の習慣を利用した詐欺ゲームで軽く読める。